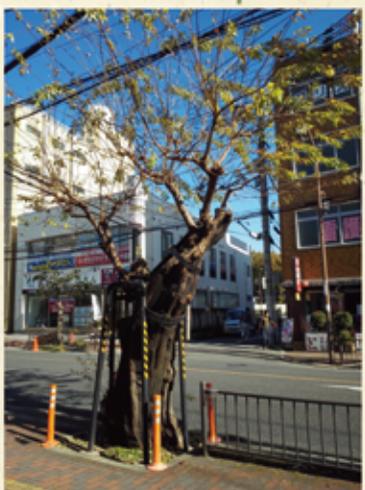


交野ヶ原西部

伐らずの柳

枚方市役所から枚方消防署へ続く道路に、せり出すように立つヤナギの老木があります。過去に数度伐採を試みたもののいずれも死傷者が出て以来、祟りがあるとして伐られていないのだとか。詳しい資料などはないものの、市道路管理課に



枚方市大垣内町1丁目4。京阪枚方市駅から徒歩3分。

よると「あの木を下手に伐つてはいけない」という事は課内で周知されているとの事。また、公園管理課が剪定や保護処置をされていますが、「作業に当たってはお祓いを必ず行う」との事です。所在地は船橋街道の辻にあたります。辻にはさまざま人間模様を描かれるものです。里の目印であったこの木には、ここに残らねばならない遠い日の約束があるのかもしれないですね。

出口村に伝わる蓮如「白骨御文」

光善寺といえは蓮如上人の腰掛け石があります。その昔、蓮如上人が越前吉崎から来られた時に最初に身を寄せられた質屋があった場所で、この質屋の主人は「御厨破入道光善」と名乗ったことから、光善寺の由来になりました。この地でした



ためられた(現在も浄土真宗の葬儀で唱えられている)「白骨御文」の悲しい物語をご紹介します。昔、出口村に木綿を商う商人がいました。商人の1人娘は、近郷近在に並ぶ者のない美人で、掌中の珠と可愛がられていました。この娘が18歳の時に交野の旧家の息子と婚約が決まり、挙式を明日迎えるという日に突然病で亡くなってしまいました。両親は悲しみ嘆き打ちひしがれていました。それを見られた蓮如上人はすぐ一編の文章をしたため、商人に与え慰め教え導いたといわれます。この文章が、かの有名な「白骨御文」です。

枚方市出口5丁目2。京阪光善寺駅から徒歩10分。

田宮姫の祠

「宮」とつく地名にはストーリーがあります。百濟王神社のある枚方の「中宮」もそうです。今回は、枚方市駅から徒歩10分の場所にある「田宮」にまつわるお話です。現在はマンションになっている場所に、かつて向山という山がありました。青々と茂った山の頂上に



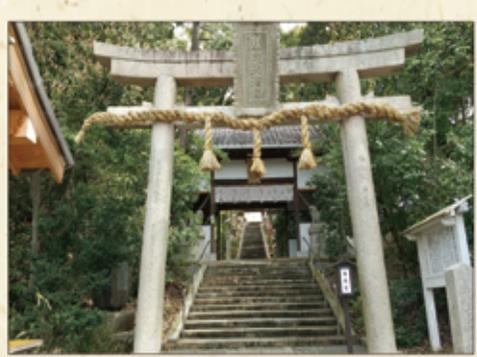
枚方市田宮本町。京阪バス「田宮」から徒歩3分。

は白砂が敷かれた場所があり、その中央にある祠に田宮姫が祀られています。1952年に淀川の堤防工事に向山の土が使われることになり、ダイナマイトを使った掘削作業が始まり、祠は山の中腹に移されました。その後、マンション建設の為、枚二小学校の裏門の近くに移されました。月日は流れ、大阪北部地震や台風により、田宮姫の祠は台座から落ちてしまいました。その後、御神体は管理者様のご自宅にお祀りされているとのこと。田宮姫を祀られた経緯などの詳細はもう知る人がいなくなってしまう謎のままです。

父娘別れの蹉跎神社

京阪本線光善寺駅から南東へ約500メートル、徒歩7分の住宅街の中に、神聖な空気の漂う神社があります。ここには、父と娘の悲しい物語があるのです。

学問の神様で有名な菅



原道真が太宰府に左遷される途中、山の上で休憩し都の方を眺めて名残を惜しんだ際、娘の刈谷姫が父に会いたいと追いかけたのですが、あと少しの所で間に合わず、悲しみに足摺り(蹉跎)して嘆いたといわれます。以来、この山を「蹉跎山」と呼ぶようになりました。その話を太宰府で聞いた道真は娘に自身の木像を作り送りました。天曆5年(951年)蹉跎山に社殿を作り、その木像を祀ったのが神社の縁起です。二度と会うことができなかつた父娘の悲しみや、互いを思う心の強さが伝わる場所です。

枚方市南中振1-7-18。京阪香里園駅から徒歩7分。